

日本知財学会第 10 回年次学術研究発表会 セッションレポート

1. 作成者	<p>知財 PeCo 前井由香里（武田薬品株式会社 法務部（技術関連契約））・ 吉岡亜紀子（赤岡特許事務所 弁理士）</p>
2. テーマ	<p>企画セッション 「アカデミア発医療シーズの実用化スキームにおける知財戦略と戦術 ～医療イノベーション5カ年計画においてアカデミアが果たす役割」</p>
3. レポート	<p>1. 飯田氏より、医薬品・医療機器産業の輸出入の状況・社会的背景を踏まえ、わが国の産業の牽引のためには、①産学官連携等による革新的医療イノベーションの創出②創出された知財の適切な保護・活用のための戦略が必要である旨が述べられた。</p> <p>2. 奥野氏からは、医療イノベーション推進のあり方、ライフ成長戦略の4本柱(革新的な医薬品・医療機器の市場投入、再生医療・個別化医療)の説明後、高度専門人材の研究の中核への配置、知財の長期活用の重要性が指摘された。</p> <p>3. 松岡氏からは、大学における医療シーズの実用化にむけて、MedU-net (医学系大学産学連携ネットワーク協議会)における検討内容の紹介、ライセンス管理・その他の知財管理に関する具体的な提案があった。</p> <p>4. 石埜氏からは、治療応用・診断応用・再生医療等を含む6つのシーズを生み出す際の課題の具体的な説明後、薬事・品質管理等の観点からの細胞医療の特殊性、大学と企業とのマッチングの困難性が指摘された。</p> <p>5. 西村氏からは、三重県での地域イノベーション創出体制の事例（ライフイノベーション総合特区の指定、三重大学地域イノベーション学研究所・地域シンクタンクによる新規事業構築の支援と政策提言等）、ワンストップ治験サービスの将来構想の紹介があった。</p> <p>6. パネルディスカッションでは、体制整備後の運用上の問題点、現体制の改革・改善、先端的医療と現行特許法・審査基準等との関係、国家ビジョンの明確化等、様々な意見が交換された。最後に飯田氏より、医療イノベーションの推進には、ものづくりを含めた我が国の知的資産、国としてアカデミアの研究力を活用することが重要であるとの言葉で締めくくられた。</p>